

みんなで盛り上げた！楽しんだ！

第33回 白石区ふるさとまつり

7月19日(土)、20日(日)の両日、区役所駐車場で開催された「白石区ふるさとまつり」。会場は約3万人の区民でにぎわいました。今月は、当日の会場の様子や祭りにかかわった皆さんをご紹介します。



昭和51年に第1回が開催され、今年で33回目を迎えた白石区ふるさとまつり。祭りの準備は、まだ雪の残るころ、主催の白石区ふるさと会が地域の皆さんとともに実行委員会事務局を立ち上げることから始まります。実行委員会では、地域から寄せられたアイデアや意見を積極的に取り入れながら、多くの人に楽しんでもらえるように、プログラムや会場レイアウト、新しいイベント企画などについて、知恵を絞りました。「白石区には芸達者な人がたくさんいる。その人たちに一役買ってもらえないだろうか」「盆踊りにも何か工夫が欲しいね」度重なる議論の末、今回は、演芸大会や仮装盆踊りなど、来場者が参加して楽しめるイベントを中心に企画。要望の多かったシャトルバスも運行することにしました。当日は、20人以上の実行委員会スタッフが、朝早くから会場の設営やイベントの準備などに大わらわ。開場後も、来場者の誘導や会場内の清掃などに汗を流しました。こうした協力に支えられ、3万人の笑顔であふれた白石区ふるさとまつりは今回も大成功となったのです。

実行委員会スタッフの活動



↑路上駐車がないよう、会場周辺を見回りました。



↑シャトルバスの運賃の受け取りや利用者の会場への誘導にも当たりました。



↑当日は約1,000人分の座席を用意しました。



↑事務局会議(写真)のほか、総務部、会場部などに分かれ、話し合いを重ねました。

地域からの意見やアイデアを取り入れたイベント



スライドショー

↑白石保健センター壁面を利用し、ふるさとまつりの歴史やふるさと会の事業をスライドで紹介しました。



フリーマーケット

↑たくさんの人に会場へ足を運んでもらいたいとの思いから開催。各ブースは、品定めをする人たちでいっぱいでした。



仮装盆踊り

↑地域で好評だったイベントも取り入れました。参加者は、趣向を凝らした衣装と愉快的な踊りで会場を盛り上げました。



演芸大会

↑かつぼれやフラダンスなどの出し物を募り、祭りを盛り上げようと企画。参加者は日ごろの練習の成果を披露しました。

※白石区ふるさと会は、区民の郷土意識と相互の連帯意識を高め、白石区を「人情味あふれるすばらしいまち」にしようと、区内の町内会をはじめ、各種サークル、企業などが集まり、昭和51年3月に設立された団体です。「白石区ふるさとまつり」をはじめ、文化・スポーツ・青少年の健全育成・国際交流などのさまざまな活動に取り組み、区のみちづくりを支えています。